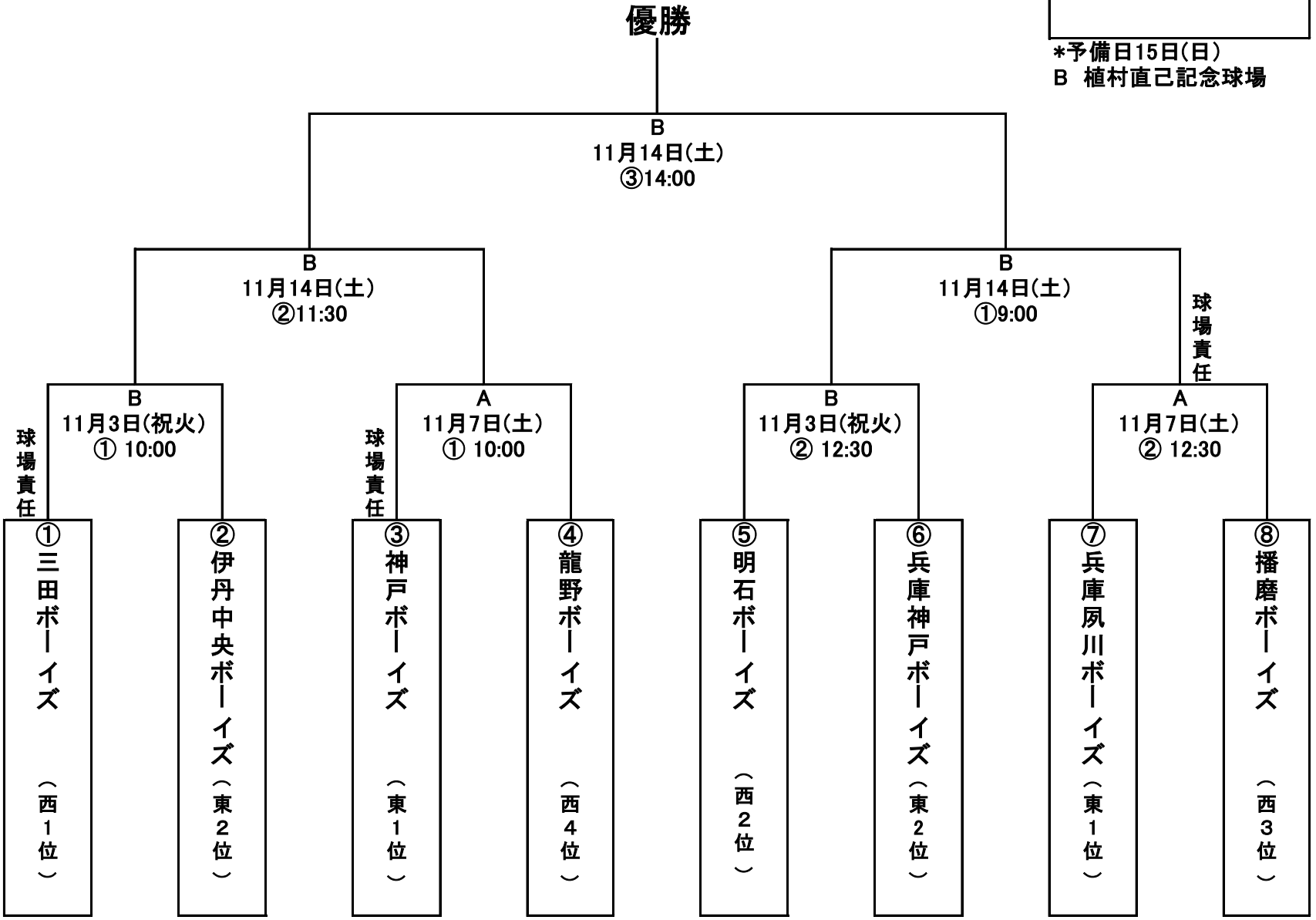
2026 兵庫県東西支部3年生親善大会組合せ

A　出石球場
B　植村直巳記念球場

*予備日15日(日)
B　植村直己記念球場



兵庫県支部3年生親善大会大会規定

1，チームの登録選手　中学3年生、１１名以上とする。
2，出場選手はその大会の登録締め切り日現在連盟へ登録済みの者に限る。
3，審査表は当年度発行のものとする。
4，オーダー表記人選手およびチーム責任者、登録された監督、コーチ、マネージャーのみベンチに入ることができる。
但し、各種登録証(チーム責任者、監督、コーチ)および審査証(選手)を携帯していない場合は、いかなる理由でもベンチに入れないが、チーム責任者、監督、コーチは試合時間までに間にあった場合は、審査の上ベンチ入りできる。また、選手は試合終了までに間にあった場合は、審査の上その時点でベンチ入りできる。なおチーム責任者は必ずベンチに入らなければならない。
チーム責任者が不在の場合は試合ができない。
5，組合せの若番号が1塁側のベンチ、後番号が3塁側のベンチに入る。ただし、チーム責任者、監督、コーチは登録書を携帯すること。
6，監督(背番号60)、コーチ(背番号50)は選手と同じユニホームを着用すること。
7，試合開始時刻60分前までに試合球場に到着し、直ちにオーダー表５部、必要に応じ投球数記録表３部を大会本部に提出の上、所定の審査を受けなければならない。
8，オーダー表交換時に両キャプテンにより、先攻、後攻をジャンケンで決める。
9，試合開始予定時刻までにチームがグランドに現れない時には、球場責任者と責任審判が協議して、没収試合を宣言することができる。
10, 試合方法など
(1) 各試合は7回戦で行い、4回終了をもって正式試合とする。試合成立後は試合開始から2時間(決勝戦2時間)を超えた場合、新しいイニングに入らない(後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は後攻チームが攻撃中でも規定時間になれば、その時点で試合を終了する）。また、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能になった場合、野球規則7.01(4)により勝敗を決する。同点の場合は最終回時点で出場したメンバー全員の抽選とする。試合成立前に、上記理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデットとする。
(2) 4回終了後(後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は、4回終了時)10点差、5回以降7点差の場合、コールドゲームとする。
(3) 7回終了後、同点の場合延長戦に入らず、また試合開始から2時間(決勝戦2時間)を超えた場合も新しいイニングには入らない（どちらか早い方を適用)。その後はタイブレーク方式を実施する。(競技に関する特別規則「タイブレーク実施細則」参照)
11, 本大会の投手投球制限を採用する。（詳細は後述の投手制限ガイドライン、または連盟HPの投球制限ガイドラインを確認)
12, (1) 監督またはコーチの指示は1試合で攻撃2回と守備2回の計4回とする。延長またはタイブレークに入った場合は、それぞれ1回の指示を認める。(選手の怪我や交代などの指示は回数に入らない)
① 投手および野手の交代を行う際、ファールラインを超える前に球審へ交代を通告した場合は、指示の回数に数えない。
【注】そのタイミングで野手がマウンドに集まった場合は「指示」とみなし、回数に数える。
ファールラインを越えてから球審へ交代を通告した場合は、指示の回数に数える。
交代を通告した後、監督またはコーチがマウンドに行き、その際に2人以上の内野手(捕手も含む）がマウンドに集まった場合は、指示の回数に数える。
② タイムの制限について
内野手(捕手も含む）タイム取得について、以下の通り制限を設けます＞
1イニングに1回、1人のみ取得可能とする。
7イニング制の場合、合計7回までを上限とする。
【注】投手が交代して準備投球後に捕手がマウンドに行くことは回数に数えない。
タイブレークに入った場合は、それ以前の回数に関係なく守備、攻撃それぞれ、1回の指示を認める。
(選手の怪我や交代などの指示は回数に入らない)
(2) 守備側の投手に対する指示が3回目となれば、自動的に投手は交代となり、その投手は他の守備位置についてもよいが、同一イニングでは投手として登板することはできない。ただし新しいイニング入れば、再び投手して登板ができる。
(3) 内野手が2人以上投手のところに行った時も、1回に数える。
(4) 指示、伝達は審判がタイム宣告してから「30秒以内」とする。
13 審判員に対する抗議は認めない。ただし、ルールの適用についての確認は認める。
14 監督またはコーチが投手に指示などをするときは、マウンドのところで行うこと。(ベンチから駆け足で)
15 2塁走者やベースコーチなどが捕手のサインを盗んで、打者にコースや種類を伝える行為を禁止する。
16 ボール回しをするときは一回りとし、最終野手はその位置から返球する。また、打者が攻撃を継続中、塁上で走者がアウトになった場合のボール回しを禁止する。
17 投手は走者をアウトにする意志がないのに、無用なけん制球を繰り返すこか、または送球するまねを何回も繰り返す行為は、試合のスピーディーな進行の妨げになるため禁止する。
18 各チームは同色のヘルメット7個以上（合同チームを除く）、捕手の規定防具【マスク・捕手用ヘルメット・プロテクター・レガース・スロットガード・ファウルカップ(一体型捕手マスクの場合はヘルメット・スロートガードを除く)】2組を備えること。
19 ユニホーム、バット、ボール、スパイク、クラブ等は連盟指定業者のものに限る。
20 捕手は必ずヘルメットならびに規定防具を試合、練習を問わず着用すること。
21 試合前のシートノックは原則として5分間行うが、当該球場のグランド状況や試合終了時間を勘案して、シートノックを行うか否かは球場責任者が決定するものとする。
22 ベンチ内で携帯電話の使用を禁止する。

備　考

野球規則7.01(4)

7.02(a)によりサスペンデットゲームにならない限り、コールドゲームは、審判が打ち切りを命じた時は終了し、その勝敗はその際の両チームの総得点により決する。

【注】我が国では、正式試合となった後のある回の途中で球審がコールドゲームを宣したとき、次に該当する場合は、サスペンデットゲームとしないで、両チームが完了した最終均等回の総得点でその試合の勝敗を決することとする。

(1) ビジティングチームがその回の表で得点してホームチームの等しくなったが、表の攻撃が終わらないうち、または裏の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってもホームチームが得点しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。

(2) ビジティングチームがその回の表でリードを奪う得点を記録したが、表の攻撃が終わらないうち、または裏の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってもホームチームが同点またはリードを奪い返す得点を記録しないうちにコールドゲームを宣せられた場合。

【タイブレーク実施細則】

(1)特別規則

（イ）中学生の部は７回終了あるいは試合開始2時間を超えて(いずれか早い方)、決勝戦は7回あるいは2時間を超えて(いずれか早い方)、両チームの得点が等しいとき、以降の回の攻撃は、一死走者満塁の状態から行うものとする。

（ロ）　打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順の者とする。

（ハ）この場合の走者は、前項による打者の前の打順のものが一塁走者、一塁走者の前の打順の者が二塁走者、そして二塁走者の前の打順の者が三塁走者となる。

（二）この場合の代打および代走は認める。

(2)チームおよび個人記録

チームおよび個人記録は公式記録とするが、以下に揚げた事項に留意すること。

（イ）投手記録

・規定により出塁した3走者は、投手の自責点としない。

・完全試合は認めない。

・無安打、無得点試合は認める。

（ロ）打撃成績

・規定により出塁した3走者の出塁記録はないものとする。ただし、盗塁、盗塁刺、得点、残塁などは記録する。

・規定により出塁した3走者を絡めた得点、併殺打などは全て記録する。

以上

野球道具は、全て連盟パートナー企業のものを使用することが義務けられています。

「中学生投手の投球制限統一ガイドライン」適用例

	第一日目	第二日目	第三日目	第四日目	第五日目	第六日目	備　　考
投手A	80	0	80	0	80	0	80球を投げた翌日には登板していないため、翌々日には80球投球できる。 (打者終了時に80球うを超えても、1試合の最大カウント数は80球
投手B	80	40	休	80	0	80	一日目80球、二日目40球で連続する2日間で120球となるため、三日目は投手・捕手としての出場はできない。(※また、2日間で80球を超えているので三日目は捕手としての出場できない規定もある。投手D参照)
投手C	40	40	35	休	80	40	3日間連続40球以内であれば登板可能。ただし球数の関わらず3日間連続登板した場合は、四日目は投手・捕手として出場できない。 四日目が休みだったので、五日目は80球、六日目40球の投球は可能。
投手D	40	45	休	30	60	休	一、二日目で80球を超えたため、三日目は投手・捕手として出場できない。四、五日目で連投する2日間で80球を超えていないため、六日目の3日間連続登板および捕手として出場できない。
投手E	40	40 40	休	80	0 40	休	一、二日目40球以内の3連投をしているため、三日目は投手・捕手として出場できない。四日目は80球のため五日目は投球した時点から1試合目に登板していなくても連続2日間で80球を超えるため六日目は投手・捕手として出場できない。
投手F	30 50	休 ※捕手可	40 40	40	休	80	ダブルヘッダーで80球以内であっても、どちらかの試合で40球を超えた場合は、3連投できないが、※連投した2日間で80球以内なので、翌日は捕手として出場できる。 第3日目からの3連投は40球以内なので可能であるが、3連投した投手は捕手としての出場できない。

「小学生投手の投球制限統一ガイドライン」適用例

	第一日目	第二日目	第三日目	第四日目	第五日目	第六日目	備　　考
投手A	65	0	65	0	65	0	65球を投げた翌日には登板していないため、翌々日には65球投球できる。 (打者終了時に65球うを超えても、1試合の最大カウント数は80球
投手B	65	40	休	65	0	65	一日目65球、二日目40球で連続する2日間で105球となるため、三日目は登板できない。
投手C	40	25	40	休	65	40	40球以内で連続する2日間で65球以内であれば3日間連続登板可能。ただし球数に関わらず3日間連続登板した場合は、四日目は登板できない。 四日目が休みだったので、五日目は65球、六日目40球の投球可能。
投手D	40	30	休	15	50	休	一、二日目で65球を超えたため、三日目は登板できない。 四、五日目は65球以内だが、五日目で40球を超えているため、六日目の3日間連続登板できない。
投手E	65 休	40	休	休 40	65	休	小学生の部はダブルヘッダーの場合、どちらかの試合しか登板できない。 登板した翌日は105球まで投球可能。翌々日は登板できない。
投手F	65	40 休	休	40	25 休	40	一日目65球、二日目1試合目は40球までで、二日目2試合目と三日目は登板できない。四日目と五日目1試合目で65球以内であれば、五日目2試合目は登板できないが、六日目は40球までは投球できる。

【小学生・中学生　共通事項】

※打席の途中で制限数がきた場合は当該打者の打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は投球数にカウントしない。
※数字は投球数。「休」は投手・捕手として出場できない日。(小学生は捕手の出場は可「0」は登板しなかった試合。
※指導者は、公式戦だけでなく、練習試合も対象になっていることを認識する。

2026　兵庫県東西支部3年生親善大会　　要項

①　　支部予選と同じ要領で審査等も行いますので審査証の忘れなどないようにお願いします。

②　決勝トーナメント進出各チームには東支部　井上IT委員長から大会への招待の連絡があります。
選手、指導者の登録を完了して登録役員・選手名簿を球場責任者に当日に提出してください。

③　3日(祝火) 7日(土) の各球場の球場責任チームについては第1試合1塁側チーム
(組合せの若番号)でお願いいたします。
(お弁当、飲み物等の準備をお願いいたします。)

④　審判については支部審判で行いますのでBL3は必要ありません。

⑤　試合運営(アナウンス、SBO、記録、球数等)については当該チームでお願いします。

⑥　大会参加費　2万5千円(大会運営費になりますので千円札25枚にして支部役員に渡して下さい)
大会参加費は大会運営費になりますが球場責任チームは小銭の用意をお願いいたします。
今大会のお弁当数に球場責任チームにプラス1個の追加はありません。
球場接待費は1日2000円とさせていただきます。

⑦　7日(土) 出石球場の第2試合の勝ち上がりチームが参加費の残金、ボール、各報告書を
持ち帰っていただき、14日の植村直己記念球場に持参して下さい。

⑧　3日(祝火) 7日 (土) の各球場　役員集合時間　　8時30分
14日(土)　　役員集合時間　　7時30分

注：　3日または7日のどちらかの試合が雨天により順延となった場合、公平性を確保するため、
実際に投球した球数を、準決勝に持ち越すものとします。
各チームにおかれましては、投球数を正確に記録していただきますようにお願いいたします。